

令和 6 年 4 月 23 日現在

機関番号：34313

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13013

研究課題名（和文）宋代仏教文化圏における葬送・追善儀礼文化に関する文献学的美術史的基礎研究

研究課題名（英文）Basic Research on the Funerary and Memorial Ritual Culture in the Buddhist Cultural Circle of the Song Dynasty from the Perspective of Bibliography and Art History

研究代表者

西谷 功 (Nishitani, Isao)

花園大学・文学部・准教授

研究者番号：80773928

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、東アジア仏教的視座から中世日本葬礼史とその文化の再検討を行うものである。

これまで葬礼研究は鎌倉時代の禅宗（その源流たる宋代禅文化）による影響と論じられてきた。そのようななかで本研究は、宋代戒律・天台を導入した泉涌寺という「場」を事例として、さらにその泉涌寺僧たちが実践した宋式の往生作法や葬送儀礼をはじめ、仏教文物・生活習慣・文化などが他宗や諸寺院に受容されていく諸様態を実証的に論じることで、禅宗のみならず律宗・教宗にも共有された「宋代の江南地域仏教」の影響であることを論証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、禅宗以外の僧や寺院・仏教文物の調査研究をすることでその共通項を見だし、日本中近世から現代へとつながる葬祭儀礼文化の源流が「宋代の江南地域仏教」であることを多面的に論証したことにある。通説的な禅宗史観で構築された方法論や資料論を批判的に継承し、それらから解放された宋仏教文化の伝播や展開の諸様態をあきらかにすることで、これまで活用されていない文物の発見および再検討を促した。さらに、かかる研究成果や方法論は、資料不足のため不明点が多い中国宋代およびその影響下にある東アジア諸国における仏教とその文化の実態解明にも援用可能な研究視座と考えられる。

研究成果の概要（英文）：This research is a reexamination of the history and culture of medieval Japanese funerary rites from an East Asian Buddhist perspective.

It has been argued that the research of funerary rites was influenced by the Zen Buddhism of the Kamakura period (the origin of which is the Zen culture of the Song dynasty). In this context, this study uses the case of Sennyu-ji Temple, which entered the Song dynasty in the same period as Zen monks and practiced Song dynasty Vinaya and Tiantai, and empirically discusses the various aspects of the acceptance by other sects and temples of the Sennyu-ji school of Song dynasty manners, funeral rites, lifestyle and culture. This research is an attempt to revise the previous studies by demonstrating the influence of "Jiangnan Buddhism of the Song Dynasty" that was shared not only by the Zen sect but also by the Ritsu and Kyo sects.

研究分野：仏教文化史、仏教儀礼史、仏教美術史、仏教史

キーワード：宋仏教 墓塔 忌日儀礼 葬送 追善儀礼 泉涌寺 肖像画

1. 研究開始当初の背景

仏教を基調とする日本葬送史研究は、天皇家（貴族層）・将軍家（武家層）の葬送が中心である。そして、仏教通史的な見解では、平安時代では真言僧による葬送、鎌倉時代には禅・律・浄土僧がそれを担い、室町時代以降では宋仏教の担い手である禅宗のひろがりとともに禅宗式葬送儀礼の普及が指摘される（上野勝之『王朝貴族の葬送儀礼と仏事』、2017ほか）では、なぜ鎌倉時代に真言僧に代わり禅・律・浄土僧たちが葬送儀礼を担うようになるのか、さらにはその担い手である僧自身の葬送・追善儀礼とはいかなるものなのか。その解明はまだなされていない。

本研究は、その内実を解明するために鎌倉時代の禅・律・浄土僧が持つ宗教実践の特質に注目する。彼らに共通の特質は、直接的間接的に宋仏教を実践した点にある。これまで禅僧は禅、律僧は律、浄土僧は浄土などの諸思想を宋地諸寺院で学んだことにのみ注目されているが、じっさいは、思想修学のほかに禅律諸宗に共有された宋地寺院の規則にしたがい、中国僧と同じく集団生活を行い、身体性をともなう日課月課年課も実践し、在家が集う儀礼空間にも参集して交流をはかっていた。つまり、彼らは寺内で宋式の葬送、施餓鬼や忌日などの追善（追慕）儀礼にも参加していたのである。報告者は入宋僧を多く輩出する泉涌寺僧を事例に、こうした体験を経て帰朝した僧たちが宋地寺院の仏道実践を鎌倉時代に広めていくこと、そして宋仏教の文物はその仏道実践のために請来されたことを指摘した（前科研・若手B「中世寺院社会における宋代仏教儀礼の興行と文物受容に関する基礎的研究」、2016-2018年度）。

従来、宋仏教の請来主体は禅僧とされ、室町時代の葬送儀礼文化も「禅宗」式と考えられてきたが、前科研成果から宋地の律宗・天台宗でもほぼ同質の葬送儀礼が行われていたと推察している。つまり、室町時代の葬送儀礼は「禅宗式」ではなく「宋仏教式」、すなわち、南北朝・室町時代の天皇家の葬送を担う「律宗」の泉涌寺は、禅宗式ではなく宋仏教式の葬送儀礼を実践していたと考えなければならない。しかし、かかる視点は現在の日本葬送史研究で関心を持たれていないと言いがたい。また、大陸文化を視野に入れた研究でも唐代までの葬送研究が主流で、宋代の仏教的葬送・追善儀礼の内実を踏まえた研究は存在しないように思われる。

2. 研究の目的

本研究は、中世日本葬送史研究を推進するために、その影響が想定される宋仏教の葬送・追善儀礼に関する文物資料を収集し、調査・研究を行う。これにより、宋地の律院・教院とそれらを受容した泉涌寺（流）の葬送、追善儀礼の実態をあきらかにし、さらには、それら儀礼空間を具体的に復元（空間に設置される儀礼本尊・仏具、そこで読誦される経文などにまで視座を向ける）することを目的とする。

その調査対象として、[1] 儒教墓にみえる仏教的要素の抽出、[2] 葬送・追善儀礼における肖像（画・彫刻）と位牌、[3] 追善儀礼に招請される諸尊格、[4] 高僧の墓塔（無縫塔・普同塔など）を中心とする。

[1]～[4]は、中世日本の葬送および追善儀礼に関連するものであり、さらには近世・現代へと継承される葬送文化として認識されるものである。本研究で新たな解釈を提示したい。くわえて、[1]～[4]の調査成果を東アジア仏教の視点から検討を加えることで、日本のみならず、ひろく東アジア仏教文化圏における葬送史・仏教学・美術史・考古学などの諸分野に還元できる新しい研究視座となることを確信している。

3. 研究の方法

東アジア仏教的視座から[1]～[4]に関わる美術・考古資料および文献資料を中心に収集して検討を加え、[1]～[4]の文物が諸儀礼で宗教的にどのように機能したのかを明らかにする。

[1]～[4]の作例は、いずれも美術史・考古学的な研究蓄積が一定数ある一方、それらが安置され、用いられる儀礼空間（場）や宗教環境に還元される研究は少ない。本研究は、美術・考古学・文献史学の研究蓄積を援用しつつも、たんなる資料収集にとどまらず、現地調査や新出を含む文物資料の翻刻と読解を通して、宋仏教の葬送・追善儀礼空間（場）を復元的・機能論的に考察する。さらには、日本の事例を東アジアの視座から比較するためには、中国南宋時代とともに、日本と同じく宋仏教を源流とする韓国高麗時代の仏教文物も調査対象とする。

こうした方法で得られた宋仏教における葬送・追善儀礼の実態、さらには鎌倉時代の入宋僧（律僧・禅僧）がそれらを請来したという視点は、仏教学（日本宗教史）美術史、考古学をはじめ、歴史学・仏教民俗学による社会制度論や民俗学的研究が主流の日本葬送史関連分野への新たな研究視座を提供するものと考えている。

4. 研究成果

[1] 儒教墓にみえる仏教的要素の抽出

宋代宗教史の特徴の一つに儒教・仏教・道教の思想的融和（三教一致）が挙げられ、鎌倉時代の入宋僧はすでに融合していた宋地葬送とその文化を「仏教儀礼」として請来したと考えられる。

近年、中国において10~13世紀の墳墓の発掘と研究が進み、多くの出土品とともに墳墓空間の具体相が明らかとなりつつある。そのなかで、儒教墓における仏教・道教の思想や文化にもとづく造形の存在が認められる。また、仏塔内における儒教・道教の影響なども知られる。

たとえば、陝西省韓城市盤樂村出土の宋代壁画墓（10世紀末）では、墓内壁画に雑劇図と涅槃図を描く。宋代以前には儒教的漢墓に仏教的イメージは存在せず、涅槃図は仏塔地下「地宮」に舍利などとともに安置（描出）されるのが一般的であったが（たとえば、定州・浄衆院塔地宮 10世紀、上海・隆平寺地宮 北宋 など）宋代では被葬者の死後イメージに涅槃世界が投影されるようになる。くわえて、瀋陽・崇寿寺白塔地宮出土の舍利石函蓋（遼・乾統7年 1107銘）に「釈迦佛昇天舍利塔」とある事例は、涅槃が「昇天」という道教的概念として認識（解釈）されていたことを物語る。

また、河南省登封黒山溝宋墓内に描かれた孝子図の「王哀聞雷泣墓図」（北宋）では、母の墳墓にすがり泣く魏王哀のかたわらに仏教的な「滅罪」を象徴する仏頂尊勝陀羅尼經幢が建立されている。儒教的儀礼空間に經幢という仏教的「滅罪」思想が現れることから、この漢墓は儒仏二教で葬送・廻向・忌日儀礼が推奨されていたと想定することは可能である。このような事例とともに留意すべきは、本来「滅罪」の必要がない仏塔地宮に陀羅尼經幢を安置する例（朝陽・北塔 1044年）が宋・遼代に認められることである。当代において、仏塔（地宮）を「墓」と認識するような思想的・文化的背景が存在したことを意味しよう。

以上の事例から、宋代では儒教・仏教・道教の思想的・文化的融和が想定できるとき、かかる視点から仏教儀礼の再検討も必要となってくる。上記事例および先行研究の収集を行い、学術発表および論文を執筆した。とくに涅槃図を用いる涅槃会の存在は、宋代において「忌日」儀礼を仏教的に解釈することで成立することを論じ、それらの文化が平安・鎌倉時代に請来されることで、日本の涅槃会が「釈迦の「忌日」に「追慕」を意識する儀礼」へと変容したことを論じた（論文「涅槃会の変遷と涅槃図 東アジア仏教社会における「忌日」を視点に」、論文「明恵撰『涅槃講義』成立の背景 俊苧請来の宋代仏教儀礼の視点から」）。涅槃会の変容は、儀礼次第と懸用される涅槃図を讀解することで理解できるものであり、宋代の葬送・追善に関する諸儀礼を検討するうえでも文献研究とともに美術・考古資料が重要な存在となることを指摘した。

[2] 葬送・追善儀礼における肖像（画・彫刻）と位牌

[1]で論じたように、宋代には儒教的理解にもとづき新しい仏教儀礼が創出された。報告者は、近年日本で発見された南唐代の東林寺僧『五杉練若新学備用』（962年に現行本成立）巻中に、儒教式葬送儀礼の影響を受けた仏式葬送儀礼の存在を確認した。そこには、龕柩空間（龕柩孝堂図）に言及するなかで、荼毘後に「真ヲ繩床二鋪ク」とみえ、それにもとづき、宋仏教の葬送儀礼で被葬者の肖像（真・影像）が用いられる事例を見いだした。美術史の成果によれば、これまで宗祖や高僧に限定されていた肖像画や肖像彫刻は、宋代に入ると有名無名を問わず制作されるようになる。その理由として士大夫文化の影響が想定されているが、むしろ葬送・追善儀礼で必須の資具として肖像画の需要があったとみなすこともできよう（論文「南都・北嶺の祖師忌 東アジア仏教儀礼の視点から」、論文「祖師像と宋代仏教儀礼 礼讃文儀礼を視座として」、論文「俊苧と宋代戒律の日本への影響」、発表「天台大師像をもちいる儀礼」）。さらに、肖像を安置する祠堂・祖堂には肖像の代わりに木主（位牌）を安置する例も宋仏教の儒教化を意味するとみなしうるが、位牌も鎌倉時代の僧が請来している。南北朝時代の泉涌寺での天皇家の葬送・追善儀礼では、位牌と肖像画が用いられており、宋式仏教儀礼文化の受容が想定される（発表「泉涌寺における天皇家の葬送」）。なお、10~13世紀の祠堂・祖堂で現存するものはわずかで、その一例として韓国栄州・浮石寺の祖師堂（12世紀頃）を訪れ、関連資料の収集に務めた。

[1][2]の研究成果は、儒教との影響関係が認められる宋仏教式葬送儀礼文化がすでに鎌倉時代の入宋僧（律僧・禅僧）によって請来されたことを証明するもので、従来、江戸時代初期に普及するとされた儒教的葬送儀礼の再考を促すものと考えている。

葬送・追善とともに重要な儀礼が臨終儀礼・作法である。従来、鎌倉時代の臨終儀礼は、源信・法然の浄土教的、または禅僧の宋代禅的なもの、つまり宗派史観にもとづくことが前提となって論じられてきた。本研究では、俊苧（1166-1227）や泉涌寺僧が実践した宋代の天台浄土・戒律にもとづく臨終儀礼を検討して、禅の臨終儀礼（椅子に坐して印を結ぶ、説法・遺偈を述べる、など）とされてきたものが、宋代江南地域の通仏教的儀礼であることをあきらかにした。これにもとづき、従来「禅」「浄土」的臨終儀礼と考えられた執権・北条時頼（1227-63）の臨終（往生）儀礼（四十八巻本『法然上人絵伝』、知恩院蔵）が泉涌寺流の影響であることを論証した（論文「北条時頼の臨終儀礼再考 俊苧・泉涌寺僧請来の宋代仏教儀礼・作法の視点から」）。関連して、一部の法然門下僧が泉涌寺流に参学することで「持戒持律」にもとづく浄土思想を展開することを論じ、従来の宗派史観から解釈できない多様な宋仏教受容のありようもあきらかにした（発表「俊苧・泉涌寺僧請来の宋仏教と法然門流僧の受容——『教行信証』成立背景の一視点、

論文「承久の乱前後における宋文化のひろがりと京洛東山 俊祐の宗教活動に着目して」。

宋式の葬送・追善儀礼（盂蘭盆）の特徴として、儀礼中に被葬者・本尊に対し「茶ヲ立テ、」（泉涌寺本『南山北義見聞私記』）供茶および茶礼を行う。つまり、抹茶を供える作法を確認した。「茶の湯」研究や喫茶文化研究において従来指摘されていない宋式仏教儀礼中の供茶・茶礼の宗教的機能は、鎌倉時代以降の寺院社会に急速にひろまる抹茶需要の解明の一助となる研究視点と認識している（論文「泉涌寺における唐物の受容」、論文「鎌倉時代における泉涌寺流の喫茶・茶礼・供茶のひろがり 宋式の寺院生活と儀礼実践の視点から」）。

[3] 追善儀礼に招請される諸尊格

儒仏道一致としては追善儀礼が重要である。宋代に入ると、「施餓鬼」「盂蘭盆」「中陰」などの仏教的追善儀礼は、儒教儀礼の「忌日」や道教儀礼の「三元」日の追慕や滅罪儀礼などと相互に影響を受け合いながら融合していく。上記、陀羅尼経幢をはじめ、地蔵十王・閻魔・三官・羅漢、金光明懺法や水陸儀文の諸神などの道仏の眷属衆は、かかる追善儀礼で招請される尊格であり、こうした儀礼文化・尊格は入宋僧により鎌倉時代に請来されている。従来、平安浄土教の延長線上に捉えられる地蔵十王や閻魔などの尊格は、平安時代にさかのぼる遺例には恵まれず、13世紀南宋代、あるいはそれを模した鎌倉時代の遺例しか確認できない。これは、平安時代に宋代流行の十王思想などの新しい仏教思想が「情報」「知識」としてもたらされ、平安時代の死後の世界を視覚的・思想的にイメージ化することには寄与したが、かかるイメージをとまなう宋仏教の追善儀礼として定着するのは、宋地儀礼を体験し帰朝した鎌倉時代の入宋僧によるところが大きいことを意味する（作品解説「金光明懺法」「重編諸天伝」「アジアの女神たち」龍谷ミュージアム、2021年）。

鎌倉時代に宋仏画を模した宋様式（宋風）仏画が制作されることも、宋仏教儀礼の興行と連動する宗教的営為と理解される（論文「草座釈迦像とその儀礼 宋元江南仏教儀礼の中世日本への伝播」）。かかる視点から、羅漢図（愛知・妙興寺、京都・東福寺、堺市博物館、泉涌寺など）の調査を行い、その源流を10世紀以降の中国江南地域に求め（「天台山石橋五百羅漢と贊寧 中国における羅漢信仰のひろがり」）様式・図様内容の検討とともに、制作年代・造像理由・懸用方法などの再検討を行った。かかる成果は、龍谷ミュージアム「ブツダのお弟子さん 教えをつなぐ物語」展（2020年、2022年）にて提示した。

また、追善の忌日儀礼本尊という宗教機能論的視点から、中・近世の高僧および天皇肖像画（京都・泉涌寺）伝・北条時頼坐像（兵庫・最明寺）や祖師像（泉涌寺、京都・戒光寺）などの肖像彫刻、さらに、後水尾天皇が再興した追善儀礼の一つである如法写経会（京都・雲龍院）で用いられる仏具・法具類などの調査も行った。この研究成果の一部は、京都文化博物館「よみがえる承久の乱」展（2021年）や泉涌寺宝物館「曇照律師と戒光寺」（2021年）にて公表している（論文「洛中洛外図屏風に描かれた戒光寺」）。

上記[1]～[3]の研究を推進するにあたり、奈良・唐招提寺蔵の『南山北義見聞私記』（16世紀書写）の翻刻を行い（論文「唐招提寺蔵『南山北義見聞私記』をめぐる諸問題 附・翻刻」）、京都国立博物館「鑑真和上と戒律のあゆみ」展（2021年）で公開された（作品解説「南山北義見聞私記 春冊」）。

[4] 高僧の墓塔（無縫塔・普同塔）

宋代葬送儀礼では墓塔も注目しなければならない。日本考古学の成果により中世には高僧墓である石塔（五輪塔など）が多く制作されたことは知られているが、この背景には宋地の高僧墓とその文化を請来した入宋僧の存在が想定される。しかし、宋式墓塔の一つ無縫塔（泉涌寺開山塔、1227年成立）の研究は様式的な検討にとどまる。報告者もまず泉涌寺開山塔を対象とし基礎的な調査を実施し、こうした高僧墓の源流の一つに宋代の「普同塔」が関連すると想定するにいたった。入宋僧重源（1121-1206）の「普同塔ノ様（雛形・図像）」（『南無阿弥陀仏作善集』）の請来、泉涌寺流の無縫塔形式墓塔群の存在は、まさに宋地に規範がある「普く同じ石塔」として、高僧墓文化が請来されたことを意味するとみなしうる。また、宋地の石塔・石造物研究でも制作主体（工人）と様式的研究が進んではいないが、やはり仏教文献を用いた思想文化的考察は十分ではない。本研究は現地調査（大分中津・羅漢寺無縫塔など）と作例収集を行い、石塔（宝篋印塔）の宗教的機能に検討を加えた（論文「五百羅漢図から読み解く僧の出家生活」）。

朝鮮半島（高麗時代）でも宋地の仏塔を思わせる高僧の墓塔が確認されている。高麗時代の高僧墓は日本では研究が進んでおらず、大分・国東塔のように共通するものが認められる一方で、日本の作例とは一線を画すものが多い。この点は11～13世紀東アジア仏教文化圏を想定する上で重要な研究視座と考えており、作例の基礎調査と収集を図った（韓国・鳳巖寺・澄暁大師塔・法興寺石墳・中央博石塔群・東国大宝篋印石塔など）。

上記研究成果も含む泉涌寺流における宋仏教の思想・文化などの受容に関しては国外に向けて発信も行った（Buddhist *lu* Patriarch Portrait Rituals and their A Spaces: The Sennyū-ji Temple as One Example, “New Perspectives in the Study of Precept Revival Movements” online, 2021, Mt. Putuo Avalokitesvara’s worship and the iconography connecting East Asian sea during the 13th-14th centuries, The 5th Preparatory Seminar for the 700th Anniversary of Shinan Shipwreck’s Departure “The Yuan Dynasty’s Trade and Exchanges with Other Countries” at 国立光州博物館（online）, 2021, Southern Song

Buddhism as Seen by Sennyū-ji Monks, “East Asian Buddhist Interactions : Focus on Greater Hangzhou Region Connections with Japan during the Song/Kamakura-Muromachi Periods”, hosted by the University of Arizona, 2023)

以上が本科研の研究成果である。[1] ~ [4] の調査・研究を通して、宋仏教の文物・思想・儀礼・所作・文化が鎌倉時代にひろがっていくさまを俊苜・泉涌寺僧を中心として実証的に研究することで、これまでの日本葬送史に新たな研究視座を提示できたと考えている。しかし、本科研のほとんどの期間が世界的規模で蔓延した疫病と重なったため、申請時に重点課題として計画した国内の他寺院伝来の生活資具・仏像 / 仏画・儀礼次第 (年中行事資料) ・墓塔の調査、海外 (中国・韓国) 調査の多くを履行することがかなわなかった点は遺憾である。今後あらためて調査・研究を進めていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 西谷功	4. 巻 -
2. 論文標題 鎌倉時代における泉涌寺流の喫茶・茶礼・供茶のひろがり：宋式の寺院生活と儀礼実践の視点から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 「日本の伝統文化」を問い直す	6. 最初と最後の頁 91-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 -
2. 論文標題 涅槃会の変遷と涅槃図：東アジア仏教社会における「忌日」を視点に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 「見える」ものや「見えない」ものをあらわす：東アジアの思想・文物・藝術	6. 最初と最後の頁 595-627
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 -
2. 論文標題 草座釈迦像とその儀礼：宋元江南仏教儀礼の中世日本への伝播	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 釈迦信仰と美術 作品解釈の新視点	6. 最初と最後の頁 307-344
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 NISHITANI Isao	4. 巻 19
2. 論文標題 Southern Song Buddhism as Seen by Sennyu-ji Monks	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 花園大学国際禅学研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 725
2. 論文標題 泉涌寺の諸儀礼から読み解く中世仏教の姿	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 53-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 -
2. 論文標題 天台山石橋五百羅漢と贊寧：中国における羅漢信仰のひろがり	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 呉越国 10世紀東アジアに華開いた文化国家	6. 最初と最後の頁 258-275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 -
2. 論文標題 泉涌寺における唐物の受容	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 「唐物」とは何か：舶載品をめぐる文化形成と交流	6. 最初と最後の頁 212 - 229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 -
2. 論文標題 明恵撰『涅槃講式』成立の背景：俊ジョウ請来の宋代仏教儀礼の視点から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東アジア仏教思想史の構築：凝然・明恵と華嚴思想	6. 最初と最後の頁 311-330
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 -
2. 論文標題 五百羅漢図から読み解く出家生活2	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ブツのお弟子さん 教えをつなぐ物語 別冊	6. 最初と最後の頁 48-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 4
2. 論文標題 13・14世紀東アジア海域を結ぶ普陀山観音信仰とその造形－新安沈船・金銅製菩薩坐像に関する一試論－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア陶磁文化研究	6. 最初と最後の頁 69 - 104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 西谷功	4. 巻 -
2. 論文標題 承久の乱前後における宋文化のひろがりと京洛東山－俊ジョウの宗教活動に着目して－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 よみがえる承久の乱	6. 最初と最後の頁 172-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 -
2. 論文標題 韋駄天説話の源流と変容 唐宋代の諸伝承と律学受講の場を視点に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 宗教芸能としての能楽 (アジア遊学)	6. 最初と最後の頁 82-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 -
2. 論文標題 北条時頼の臨終儀礼再考 - 俊ジョウ・泉涌寺僧請来の宋代仏教儀礼・作法の視点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ことば・ほとけ・図像の交響—法会・儀礼とアーカイブ	6. 最初と最後の頁 211-240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 55
2. 論文標題 鎌倉期戒律復興の実像—泉涌寺僧が果たした役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 32-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 -
2. 論文標題 五百羅漢図から読み解く僧の出家生活	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ブッダのお弟子さん 教えをつなぐ物語	6. 最初と最後の頁 160-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 -
2. 論文標題 羅漢会を読む—供養と儀礼—	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ブッダのお弟子さん 教えをつなぐ物語	6. 最初と最後の頁 150-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 -
2. 論文標題 俊じょうと宋代戒律の日本への影響－夏安居儀礼を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鑑真和上と戒律のあゆみ	6. 最初と最後の頁 241-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 85
2. 論文標題 洛中洛外図屏風に描かれた戒光寺	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 69-4
2. 論文標題 鎌倉期東山における宋式寺院という「場」 泉涌寺の宋文化受容の視点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地方史研究	6. 最初と最後の頁 11-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件 (うち招待講演 19件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 NISHITANI Isao
2. 発表標題 Southern Song Buddhism as Seen by Sennyu-ji Monks
3. 学会等名 East Asian Buddhist Interactions : Focus on Greater Hangzhou Region Connections with Japan during the Song/Kamakura-Muromachi Periods (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 泉涌寺における天皇家の葬送
3. 学会等名 京都学講座（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 羅漢図から見る僧院生活
3. 学会等名 龍谷大学龍谷ミュージアム「ブツダのお弟子さん」公開講座（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 俊ジョウ・泉涌寺僧請来の宋仏教と法然門流僧の受容：『教行信証』成立背景の一視点
3. 学会等名 龍谷教学会56回大会 シンポジウム『教行信証』研究の新たな可能性（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 俊ジョウ・泉涌寺僧による鎌倉戒律復興運動の実像
3. 学会等名 泉涌寺夏季講習会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 鎌倉時代の寺院生活：禅律寺院を事例に
3. 学会等名 妙心寺夏季講座（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 俊ジョウ；：承久の乱と泉涌寺
3. 学会等名 姫路市市民教養講座（歴史講座Cコース）「承久の乱をめぐる人々」第5回（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 泉涌寺流における茶・花：宋式寺院生活とその実践の視点から
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所共同研究 「日本の伝統文化」を問い直す（重田みち氏代表）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 真正 仏牙舍利の成立と展開
3. 学会等名 名古屋大学国際シンポジウム「宗教遺産をめぐる真正性：宗教遺産テキスト学の発展的展開ー」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 俊ジョウと宋代戒律の日本への影響
3. 学会等名 京都国立博物館 鑑真和上と戒律のあゆみ 展記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 NISHITANI Isao
2. 発表標題 Use of Portraits of Vinaya School Patriarchs in Rituals and their Spaces: The Case of Sennyuji Temple
3. 学会等名 前近代日本宗教ワークショップ 戒律復興運動研究の新知見（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 NISHITANI Isao
2. 発表標題 Mt. Putuo Avalokitesvara's Worship and the Iconography Connecting East Asian Sea during the 13th-14th centuries
3. 学会等名 韓国・国立光州博物館 The 5th Preparatory Seminar for the 700th Anniversary of Shinan Shipwreck's Departure "The Yuan Dynasty's Trade and Exchanges with Other Countries" 「元の対外交流と交易品」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 泉涌寺俊ジョウ将来の南宋僧院生活文化 羅漢図像をふまえて
3. 学会等名 中津市歴史博物館記念 西向くサムライ 鎌倉幕府と豊前国 講座（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 天台大師像をもちいる儀礼
3. 学会等名 大津市歴史博物館 「西教寺 大津の天台真盛宗の至宝」展、れきはく講座（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 泉涌寺流の宋式僧院生活と実践 宋文化受容の一事例としての「茶」「花」
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所共同研究 「日本の伝統文化」を問い直す（重田みち氏代表）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 泉涌寺の創建 東山に創建された知られざる 中国式 寺院
3. 学会等名 古代学協会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 歴代天皇の泉涌寺への帰依、葬送儀礼
3. 学会等名 古代学協会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 羅漢さんの住む世界 羅漢図とその儀礼
3. 学会等名 香雪美術館「お～い羅漢さん」展講座（梅園会）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 涅槃会の変遷と涅槃図 東アジア仏教社会における「忌日」を視点に
3. 学会等名 「見えるもの」や「見えないもの」に関わる東アジアの文物や芸術についての学際的な研究
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 江戸時代の泉涌寺復興と近世の天皇家
3. 学会等名 古代学協会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 鎌倉期戒律復興の実像 泉涌寺僧が果たした役割
3. 学会等名 律をめぐる宗教的環境と説話文学との架橋（説話文学会2019年度大会シンポジウム）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 宋式仏堂空間の荘嚴 泉涌寺を事例に
3. 学会等名 室町水墨画における中国道釈画の受容（科研「公武の信仰を統合した足利將軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究」）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 明恵撰『涅槃講式』成立の背景 俊ジョウ請来の宋代涅槃儀礼の視点から
3. 学会等名 日中韓国際シンポジウム「東アジア仏教思想史の構築 凝然・明恵と華嚴思想」
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 稲本泰生	4. 発行年 2023年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 640
3. 書名 釈迦信仰と美術：作品解釈の新視点	

1. 著者名 外村中・稲本泰生	4. 発行年 2024年
2. 出版社 勉誠社	5. 総ページ数 724
3. 書名 「見える」ものや「見えない」ものをあらわす：東アジアの思想・文物・藝術	

1. 著者名 重田みち	4. 発行年 2024年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 504
3. 書名 「日本の伝統文化」を問い直す	

1. 著者名 板倉聖哲	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 696
3. 書名 アジア仏教美術論集 東アジア	

1. 著者名 板倉 聖哲、塚本 磨充	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 712
3. 書名 アジア仏教美術論集 東アジア	

1. 著者名 一般財団法人律宗戒学院	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 462
3. 書名 唐招提寺第二十八世凝然大徳御忌記念 凝然教学の形成と展開	

1. 著者名 楠 淳澄、中西 直樹、嵩 満也	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 国際社会と日本仏教	

1. 著者名 平成洛陽三十三所観音霊場会・京都府京都文化博物館、長村祥知	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 京都観音めぐり 洛陽三十三所の寺宝	

1. 著者名 一般財団法人 律宗戒学院	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 474
3. 書名 覚盛上人御忌記念 唐招提寺の伝統と戒律	

1. 著者名 龍谷大学創立380周年記念書籍編集委員会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 190
3. 書名 時空を超えたメッセージ	

1. 著者名 西谷功・大谷由香・高橋慎一郎・佐藤雄介・林晃弘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学史料編纂所研究成果報告2019-1	5. 総ページ数 200
3. 書名 泉涌寺所蔵の中・近世史料に関する基礎的研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------